

読者の皆さま
調査室にご意見を
お寄せください

monthly
No.20
ランコ

平成 18 年 1 月 13 日発行
アイヌ文化環境保全対策調査室通信
アイヌ文化博物館ホームページ RANKO 月報
http://www.ainu-museum-nibutani.org

環境調査室連絡先
TEL (01457)4-6011
FAX (01457)4-6012



持続可能な文化環境保全のあり方を探る



アイヌ文化環境保全対策調査・出発点を振り返る

私たちアイヌ文化環境保全対策調査室はこれまで調査した結果を盛り込んだ報告書を今年度末に北海道開発局に提出します。調査してきた内容は平取ダムを建設する際に沙流川流域に受け継がれてきたアイヌ文化にどのような影響を及ぼすかについての調査です。



アイヌ文化に深く結びついた 平取ダム建設予定地

平取ダム建設予定地とその周辺は歴史的、現在の、あるいは将来的にも、アイヌの人たちの生活に密着した資源を極めて豊かに内包し、文化継承を図り時代に引き継いでいくための場として重要な意味を有しています。また、個人、縁故集団、地域共同体の振興や民族的アイデンティティ（自己同一性・帰属意識）を再生産する、いわば民族的誇りと癒しの場であり、それをシンボリックに示す数多くの伝承や伝説がこの土地と深く結びついています。額平川流域はアイヌの人たちにとっての伝統的な地理観念で言えば、聖地ポロシリ岳と沙流川流域全体を結ぶ重要な地です。そのような視点をさらに沙流川水系の全域に広げれば、そこに存在している価値は計り知れないものになります。



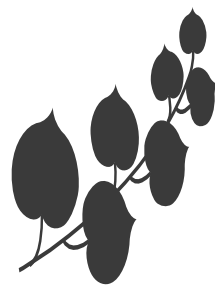
本調査の特色

この調査の特色は 3 点あります。1 点目はアイヌ文化に関して開発行為をアセスメント（環境影響評価）とミティゲーション（環境保全措置）を目的とした調査であること、2 点目はアイヌ民族が育んできた伝統的自然観を尊重・理解し、これを踏まえて今日的に見て適正な評価とこれによる対策の基礎を得ることを目的とした調査であること、3 点目はアイヌの人たちを始めとする地域住民の主体的な意見の表明を集約し、これを反映させるためにアイヌの人たちを中心として、これに専門家や有識者を加えた共同作業によって諸課題の解決にあたらうとする調査であることです。

（中間報告書の記述より）



冬の二風谷ダム湖



シシムカ・イオル文化大学 第 15 回講座の案内



今回のシシムカ・イオル文化大学第 15 回講座は 2 月 5 日（日）の予定です。

イオル文化大学講座も今回をふくめ残りあと 2 回です。どうぞお誘いあわせの上いらしてください。

場所：本町ふれあいセンター・多目的室 **テーマ：**「沙流川とアイヌ文化 歴史・現状・展望 その 3」
アイヌ文化の振興と環境の保全に向けた建設的なご意見や率直な質問などをお待ちしております。

第 15 回・アイヌ文化環境保全対策調査委員会は 1 月 21 日（土）です

議題 報告書第 部：「調査室報告まとめ」の概要報告 各ワーキンググループからの報告
報告書第 部：「調査委員会意見とりまとめ」原案の検討 河川整備計画の変更について

場所：本町ふれあいセンター 当日受付、入場無料です





調査室内の作業分担

調査室内では班とグループで作業分担されています。班は現地調査班、データ集積班、聞きとり班、シミュレーション班、総括班があります。現地調査では平取ダム建設予定地において、アイヌ文化に関わりの深い動植物の分布状況と生育・生息環境の特徴を知ること、さらに地名・史跡・その他アイヌ文化に関連のある場所などを確認する作業を行いました。それぞれの調査から得られるデータは、データ集積の担当者が電子データ化し、後に活用するために分類・集積しました。聞きとり作業は地域の人たちの「声」「記憶」「想い」を記録し、ほかの分野とのデータ関連付けを行いました。シミュレーション作業は、主に平取ダム建設予定地の模型作成や、コンピューターを用いて各調査から得られる情報を地図化・可視化することを中心に行いました。総括班はこれらの作業を円滑に進めるべく業務総括、会計処理を行い、調査委員会・イオル文化大学の運営を行いました。実践作業としては、植物栽培実践と食文化試行が行われ、アイヌ民族の植物利用および食文化の理解、さらにそれらの栽培の可能性を探り、試みる調査を行いました。



3年間の調査の展開

調査の1年次はスクリーニング、基礎調査を行い、調査委員会を構成し啓発講座（イオル文化大学）を開始しました。2年次は本調査に入り、調査委員会の基本見解を示し中間報告を提示しました。3年次は保全・代償対策検討と調査全般の総括を行い、まとめ作業に入っています。



経緯と方針について

改めて簡略に確認しておきます。

本調査の経緯と方針は国土交通省北海道開発局室蘭開発局建設部が平取ダム建設でアイヌ文化にどのような影響を与えるかについて独自に文献情報等を収集する一方で、現地調査実施の可否について、平成14年12月平取町に打診を行いました。問題の性質上、平取町教育委員会との協議が必要であったので、平成15年1月16日に室蘭開発建設部沙流川ダム建設事業所と平取町教育委員会文化財課、各々の担当者による会議が開かれました。

沙流川ダム事業所より、アイヌ文化に関わる調査の実施を平取町に委託したい、また調査に地元住人の参画を得るようにしたい旨の意向が表明され、要請されました。平取町教育委員会を中心に行った検討の結果、業務を受託、3カ年の計画で実施することとなりました。その理由は次の4点で、第1に、アイヌ文化の継承と振興を進める上で避けられない課題であること。第2に、「沙流川流域における伝統的生活空間整備構想」に深く関わる問題を含んでいること。第3に、この種の調査が仮に他の専門機関等に委ねられた場合でも、地元のアイヌの人たち自身の参画が得られるようにすべきことは平取町教育委員会文化財課としての従来からの見解でもあり、この点については町が直接受託することでより実効性を高められると考えられたこと。第4に、沙流川総合開発事業の速やかな推進は平取町自体が北海道開発局に積極的に要請してきた事項であることです。

